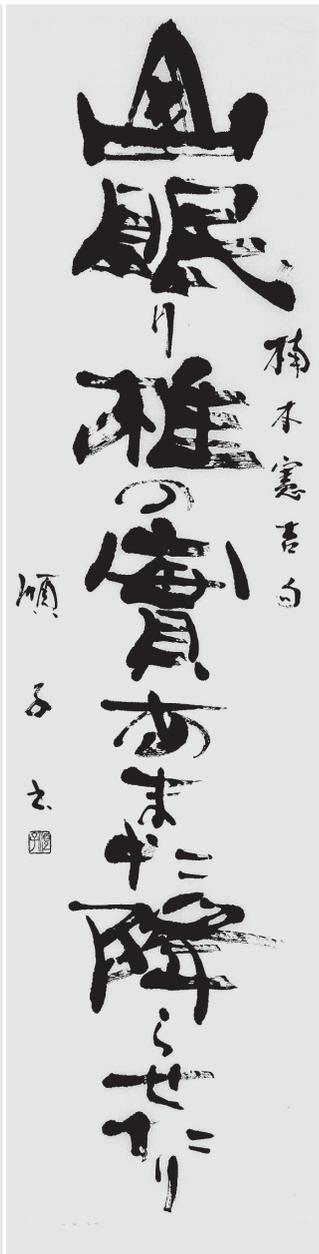
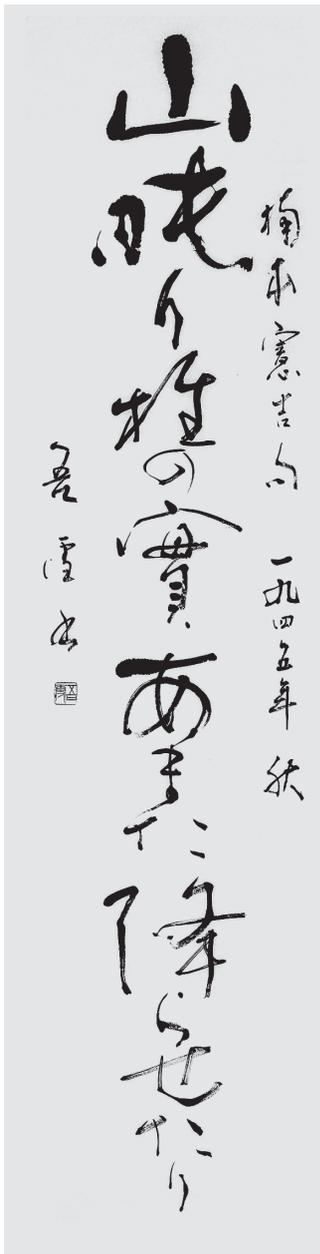


武良霜伯先生選評



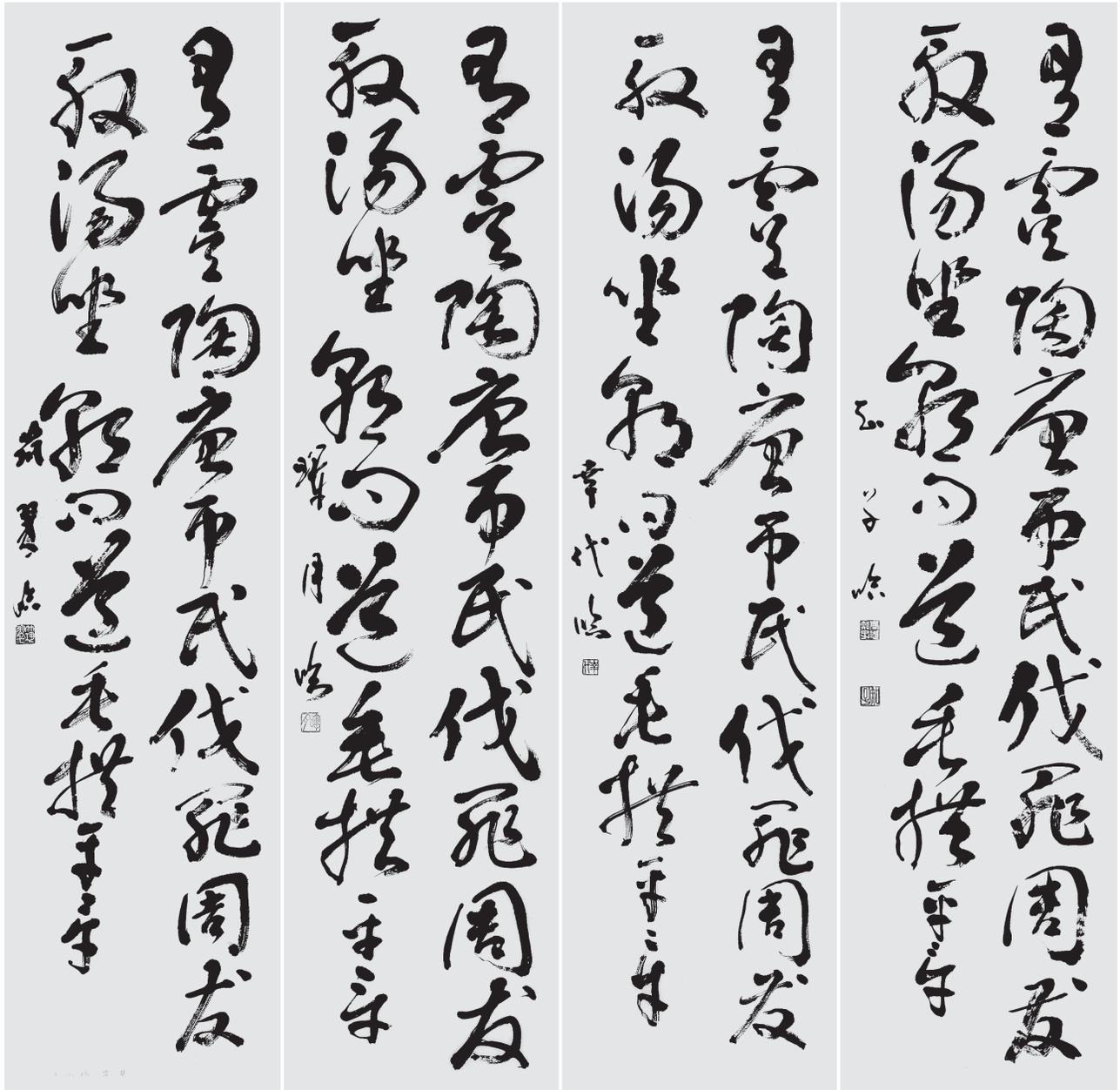
**今村 燦** 推選  
 作品に強い「気」が感じられて、線が紙面を圧している。実に生き生きと躍動して観る者に迫って来る迫力です。長く研鑽され、錬磨の尊さを示している作。

**藪島 蒲島** 推選  
 磨墨でしようか、淡墨が美しく、先ずはチャレンジされた姿勢に敬服致します。小書きも左右とも流暢に書き慣れており、ピタリと決まっています。

**深澤 順子** 推選  
 濃墨を独特のリズムで、ここ数年一貫しての作品づくりを手中にされ、感服しております。はち切れそうな隷書体の漢字は若々しいフレッシュさがあります。

**太田 吾雪** 推選  
 今回の推選の方々は四者四様。実に個性的な作品制作の態度で、誠に感心致しました。筆管の握りが柔らかく最後の落款まで流れが素晴らしいですね。

足立翠泉先生選評



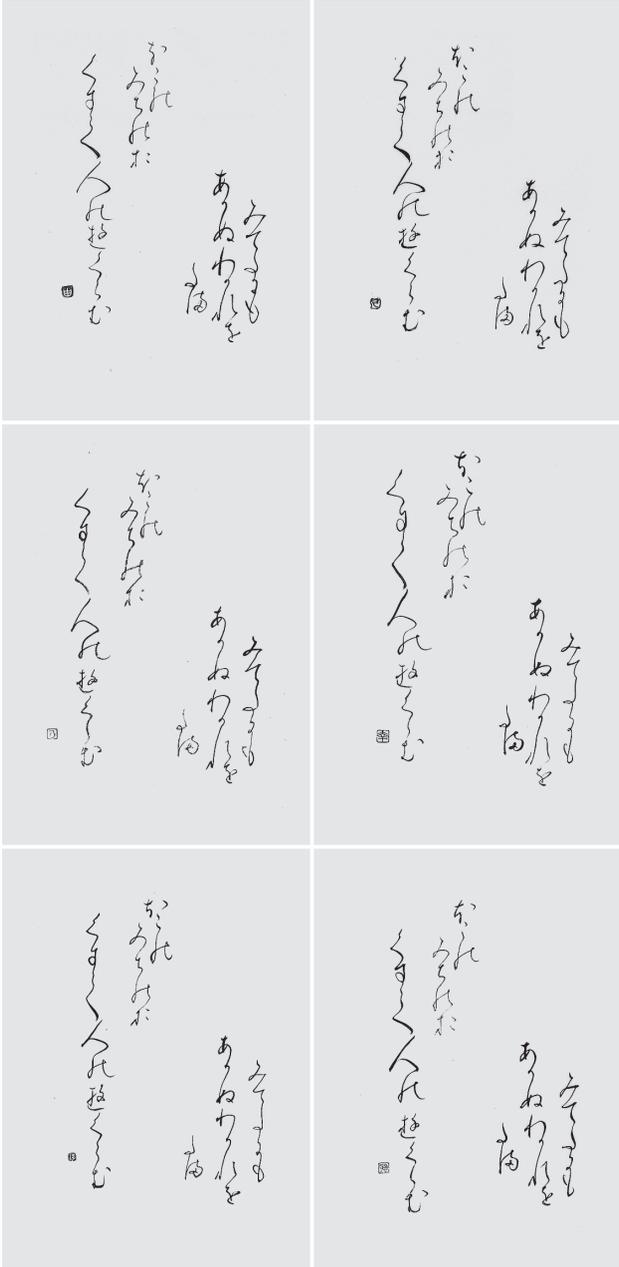
**高志知子** 推選  
 大きな構えで、ゆったりと自然な筆致で纏められている。潤濁、剛柔、遅速の変化を活かして、懷素の千字文に高尚な雰囲気醸し出しています。練達な作。

**居和城 幸代** 推選  
 原帖の特徴をよく研究、把握されている。落ち着いた筆運びで、線の変化、余裕のある構成と懷素六十三歳晩年の枯淡の書との説もある書趣が窺える熟れた作。

**鈴木暉月** 推選  
 気宇の大きい構えで馴れた筆遣いの安定した充実作。流れのリズムの中に線の太細、潤濁の巧みな変化、柔らかい筆の捌きの確かさが見事です。

**小塩筑翠** 推選  
 高い落筆と運腕が大きく、澆測とした聡明な印象が特徴となった。潤濁の線が美しく、遅速の変化ある流れの中で、懷素千字文の確かな風格がある臨書作。

久保田淳子先生選評



**和泉由起子** 準八  
筆庄に変化があり  
どの行もそれぞれ  
の魅力あり。全体  
も一つになつてま  
とまつて居る。速  
さのある運筆が感  
じられ、安定感も  
ある作品。

**吉田典子** 七段  
大らかな運筆で温  
かく、原帖から窺  
える優麗な空気を  
感じる。ただ課題  
は筆庄の変化で、  
覇気が横溢して居  
る部分なので、少  
し優しすぎる。

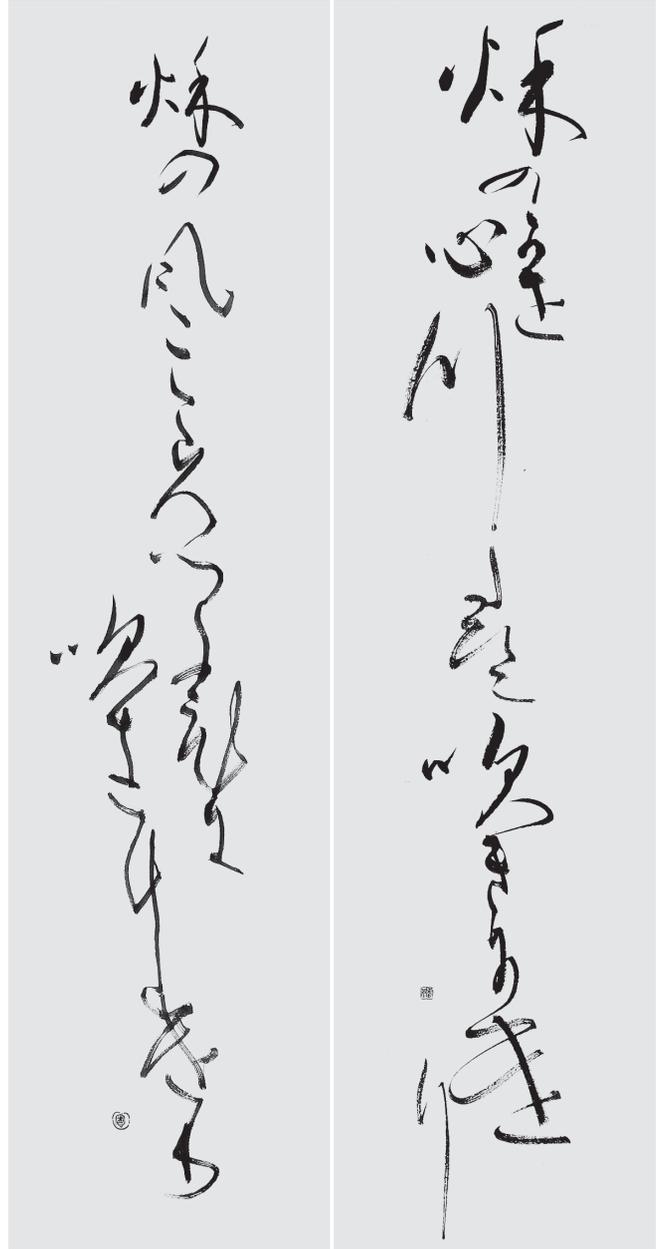
**塚越涉空** 準七  
やや小ぶりの文字  
ながら、連綿線が  
しつかり美しいの  
で凛とした力ある  
作品に仕上がった。  
墨量を工夫して、  
渴筆を生かしてみ  
ましょう。

**栗田久仁子** 師範  
若々しく優麗な原  
帖の魅力を会得し  
て、運筆自在に気  
持ちよく表情ある  
線で仕上げられた。  
半紙作品としての  
バランスも程よい  
と思う。

**居和城幸代** 師範  
墨量・墨色美しく  
文字間の工夫によ  
つてアクセントが  
つき、行の動きも  
中央部分を引き立  
て素晴らしい。温  
かい雰囲気ある作  
品。

**金谷聡子** 八段  
丁寧な運筆。浮沈  
に留意してリズム  
ある行の流れも自  
然。墨量がやや多  
いのでしつかりし  
た空気があふれて  
居る。終句のバラ  
ンスが見事。

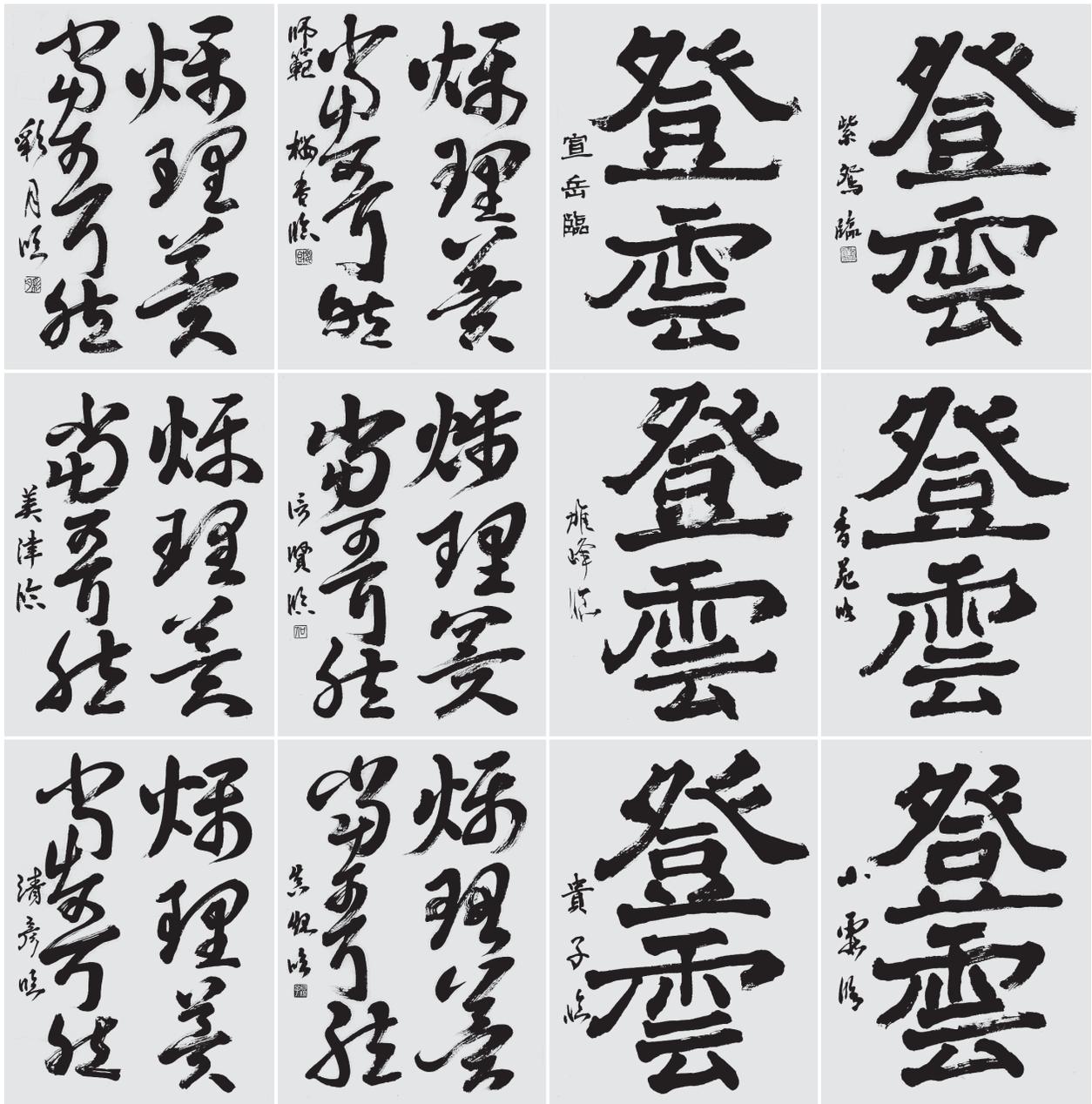
吉田久実子先生選評



**名久井憲子** 推選  
作品構成獨創性あり、趣深  
い。筆力充実し淀みない連  
綿佳。雅印の位置も適格。  
更に筆鋒の開閉を使い、渴  
筆部分を加えればより高い  
作に。

**村上春風** 推選  
筆の弾力を駆使し、繰り出  
していく線温かい。文字の  
大小の変化も絶妙で、筆者  
の書の世界観が広がってい  
る。「遣」も少し小さけれ  
ばと惜しまれる。

江幡太璣先生選評



佐々木紫鴛 師範  
若干墨量少ないが筆の握り柔らかく深い呼吸で力まず味わいのある線で書けています。白を多く取り雄大な論経らしき充分に發揮できています。

宣岳 準五  
貴方も「登」動き大きく伸びやかな線いいですね。「雲」の三画目が短いのと転折が内側に入りすぎました。懐白が狭くなりましたのでご注意ください。

堀 桜香 師範  
何と言ってもリズム、潤濁が素晴らしい。だから線が活き活きしていて明るい作品。躍動感抜群。章法を心得ており白眉である。

横田彩月 準七  
貴方も筆圧の軽重太細、大小がお見事です。浮沈がきちんと出ています。証拠ですね。落款も本文のリズムと良くマッチしていいお似合いです。

五味香苑 準師  
「登」素晴らしい。懐広く息の長い線魅力です。「雲」の三画目もう少し長くしても良かったでしょう。転折は原帖を良く見てみましょう。

伊藤雄峰 準四  
造像記を想わせる様な起筆、収筆、払い北魏の時代です。この様な捉え方もありでしょう。字によって円筆、方筆の違いを良く観ましょう。

五十嵐信賢 八段  
「當」は渴筆で行きたかったね。意先筆後が良く出来ていて軽快で小気味良い書き振りで。今後は遅速の変化と潤濁をつける様にしましょう。

白木美津 準六  
丁寧な筆遣いで連綿線も強くしっかり書いています。「然」の大きさもこの位の方が安定感があると思います。潤濁の渴が欲しい所ですね。

村田小霞 準六  
墨量充分で粘りがあり紙面に食いこんだ強い線が目をはいた。論経の雄大さ存分に表現できています。今後は横画起筆の角度筆圧の違いなどを。

綿田貴子 二段  
やや大きいが元氣一杯。論経だからいいでしょう。起筆の藏鋒、転折の筆圧の変化など今後の課題として勉強していった方がいいね。

萬代真規子 七段  
落筆高く大きな動きで堂々と書けています。遅速の変化もあり筆圧の軽重がお見事です。「理」も良く原帖を観て書けています。

中澤清彦 二級  
一字目やや大きく多少アンバランスな所もありますが、筆遣いが良く多種多様な線で表現出ています。これからは頑張り下下さい。